

慶應義塾大学 文学部

仏文学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部のみならず、さまざまな学部を横断する総合教育科目を通じて広い教養を培うと同時に、厳密に構築され、ティーム・ティーチングを徹底させた語学科目や、専攻が提供する多様な演習科目によってフランス語の高度な運用能力を獲得することが、卒業のための大前提となる。同時に専門教育科目については、仏文学専攻内にとどまらず、他専攻、他学部の開講科目も広く卒業単位として認定しているが、これは学生一人ひとりが卒業に向けて自分で考え、進むべき道を自ら切り拓いていくよう促すためである。

当専攻の専門課程を修了した学生が身に着けるべき能力は二つに大別することができる。一つはフランス語圏諸国で活躍するに足るだけの語学力であり、いま一つは国際人として異文化を理解するための人文的教養および洞察力の獲得である。そのような能力を鍛えるための実習であると同時に、その能力の獲得証明でもある卒業論文は、専攻の学生全員が取り組まなければならない必修の課題である。少人数ゼミの形式で開講される「フランス語学文学研究会」に参加し、ゼミ担当教員の指導の下で研究テーマを掘り下げ、論文を完成させることは、自分の視界や世界が大きく広がっていく経験であり、学生一人ひとりが自立への道を歩み始める点で何ものにも代えがたい学生生活の総決算となるであろう。

以上の方針にもとづく要件を満たしたと認められる学生に、学士（文学）の学位を授与する。

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。